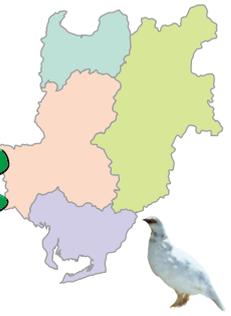




広報

中部の森林



林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



一宮なほみ人事院総裁（左側）から人事院総裁賞を授与される曾我義孝治山技術専門官



木曾署にて新島局長より伝達表彰を受ける新津木曾署長



南木曾支署にて新島局長より伝達表彰を受ける
酒向南木曾支署長

主な項目	○ 中部森林管理局内で人事院総裁賞を受賞	P2
	○ 各地からのたより	P5
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

平成二十六年七月南木曾町の梨子沢で発生した土石流災害、同年九月の御嶽山噴火による火山災害の際（度重なるこれらの災害に対して）、被災状況の確認をはじめ、監視カメラや雨量計の設置、治山ダムの設置や補修などを速やかに行



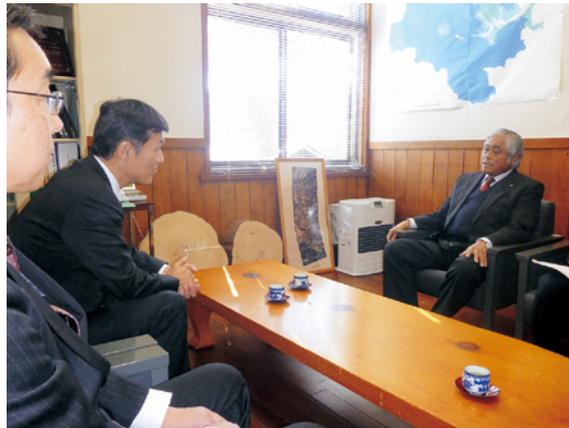
人事院総裁賞賞状

【総務課】平成二十八年人事院総裁賞を中部森林管理局の治山課と木曾署及び南木曾支署が職域部門で受賞しました。山地災害での対応などが評価されたもので、二月九日に東京の明治記念館で授与式が行われ、中部局を代表して治山課の曾我義孝治山技術専門官が授与式に出席しました。

**中部森林管理局内で
人事院総裁賞を受賞**



木曾町にて原町長（右側）



王滝村にて瀬戸村長（右側）

い、二次災害の防止や地域住民の安全確保などに貢献したことが受賞の理由です。なお、同賞職域部門の林野庁関係の受賞は、「前橋営林局大間々営林署足尾

治山事業所（平成元年度）、北海道営林局浦河営林署（平成四年度）、北海道森林管理局根釧西部森林管理局パイロットフォレスト造成事業実施グループ（平成十八年度）に続いて四件目です。
人事院の授与式を受け、新島局長は伝達表彰をおこない、三月二三日に木曾署及び南木曾支署の両署において、その足で、関係市町村（王滝村、木曾町、南木曾町）へ出向いて受賞の経過等を報告しました。
ちなみに、今回の人事院総裁賞は29回目、表彰式が29年の2月9日でした。これは、たまたまでしょうか。それとも、にくい演出でしょうか。



南木曾町にて向井町長（左側）



開会にあたり挨拶する新島局長

**生産性向上実現プログラム
取組結果発表会を開催**

【資源活用課】二月十五日に中部森林管理局において、昨年に引き続き第二回となる「生産性向上実現プログラム取組結果発表会」を開催し、管内の素材生産事業者や県等から百四名、国有林関係者八十名の計百八十四名が参加し開催されました。
中部森林管理局の生産性向上実現プログラムの取組は、林業・木材産業の成長産業化の実現のため、民有林、国有林共通の課題である素材生産事業の生産性向上に取り組み、地域の林業のさらなるレベルアップを図るもので、昨年度から始めたものです。今年度は、管内国有林の

フィールド十ヶ所にモデル事業地を設定し、生産性の目標設定や、事業者と県等の現地検討会・勉強会の開催のほか、作業日報の作成による生産性の把握・分析や、PDCAサイクルを活用した作業システムの改善検討などを、国有林の職員や事業者、研究者等の専門家が一体となって取り組みました。



発表の様子

開会にあたり新島局長からは、モデル事業に取り組みました関係者へのお礼とねぎらいの言葉とともに、なぜこの取組が必要なのかについて「かつては安い労働力と高い材価で乗り切ったが今は違う。コスト削減ができないとどうなるかは目に見えている。山を管理するものとして

そうなるのはならない。生産性向上のこうした国有林での取組を民有林へ波及させていくことが重要。今日の発表会を生かし、来年度に向けてのスタートにしたい。また、一つの労働災害で全てが泡になることを踏まえ、労働安全の確保をお願いする」と挨拶がありました。

発表会では、全てのモデル事業地の実行者事業者と森林管理署等の担当者から、事業内容、作業システムの工夫や日報分析によるポトルネックの把握と改善、PDCAサイクルの活用など生産性向上に向けた具体的な取組内容、取組の成果や課題等について発表が行われました。この結果、モデル事業地全体では、目標値に対して約一・五倍の生産性向上がみられました。



表彰状の授与



表彰式終了の記念写真

発表終了後、優良取組事例の表彰が行われ、今回は、信州カラマツを主体に生産する長野県東信地域で、高密度網を伴ったブロック単位で木材搬出の効率化を図る作業システムに取り組み成果を上げた南佐久北部森林組合（代表理事佐々木定男）「東信森林管理署」が最優秀賞を、（組）山仕事創造舎（代表理事香山由人）「中信森林管理署」、G EEP Forest（株）（代表取締役曾根洋人）「岐阜森林管理署」がそれぞれ

優秀賞を受賞しました。

アドバイザーの京都大学藤野正也特定研究員からは、「この取組を通じ、一人一人が日常の業務の中で何か一つを改善するといったイノベーションが、全体の底上げに繋がる。まだまだ長い道のりであり、事業者がひとりで行うとするとくじける。国有林や県等による技術面などのサポートを、今後は、民有林に対しても期待したい」との今後の取組に期待する講評をいただきました。

最後に、木村次長から「資源の循環利用といった中で、山主がいかに多くの利益を還元できるかが大切」と、生産性向上、低コスト化に取り組む目的とともに、参加された皆さんへの感謝とねぎらいの言葉で閉会しました。

**森林資源の有効利用を考える
現地検討会を開催！**

「名古屋事務所」二月二十日、名古屋事務所は、管内の森林資源の成熟に伴い、皆伐等も増えその林内に有用な広葉樹等も含まれることから採材技術などのスキルアップを目的に榎小林三之助商店各務原営業所において、「広葉樹等森林資源の有効利用を考える現地検討会」を昨年に続いて開催しました。

当日は生憎の雨でしたが、中部局管内の職員二十七名が参加しました。

これまでも広葉樹等の資源については、治山、林道等の支障木で出材される

ケースがありました。広葉樹等の価値に最大の付加価値を付けての販売ができていなかったケースも見受けられました。

その背景のひとつにスギ・ヒノキ・カラマツ等の人工植栽をした針葉樹の採材技術の検討会・勉強会等は行われていたものの、天然性の広葉樹材等の見方や採材方法の研鑽や継承はなかなか行われてこなかったと感じています。



営業所長石井氏からの概要説明

当日は(株)小林三之助商店各務原営業所 長石井大三氏、次長村瀬晃氏に講師をお願いし、広葉樹等の材の見方や採材方法、従来からと最近の需要傾向の違いなどについて説明を受けました。

特に、中部局管内の人工林内にも介在するケヤキ、トチノキ、クリ、カンバ類、ナラ類などについて材の見方や欠点である曲がり、腐り、空洞、節、ネジレ、木口割れなど各務原営業所の広葉樹市場の原木を見ながら説明を受けました。



原木を見ながら、採材指導等を受ける参加者

今回の参加者は、比較的经验の浅い森林官等を対象としていたため、基本的な広葉樹等の採材寸法やケヤキなど割れやすい木の採材技術として「サバ止め採材」という特殊な採材も専門用語など含めて「言葉」から学ぶことができませんでした。

広葉樹の需要先については、寺社・仏閣、一般建築、家具材、装飾品、楽器類、刃物類、茶道等、従来からの需要先や海外向けの和風建築やオブジェなど新たな需要先など樹種ごとに説明を受け、また、各務原営業所の広葉樹工場には、先の市売りで自動車関係企業の中国人バイヤーに落札された出荷前の原木が山積

みされており、参加者らはその量に感嘆の声を上げ、近年の海外輸出の需要動向などの現状を垣間見ることができました。

市場関係者からは、「原木は刺身と同じ、だから新鮮材の出荷をー」などの市場からの要望も受けるなど、生産現場である国有林として真摯に受け止めていました。

広葉樹等の目利きには、「経験」が必要で一足飛びにはそのスキルを上げることは出来ませんが、今後、参加者が国有林内を森林計画や収穫調査、巡視の際に今回吸収した広葉樹等へのノウハウを高付加価値化へ繋げられることに期待して、引き続き、こうした取組を継続していくこととしています。

森林総合研究所と信州大学農学部と中部森林管理局が三者協定を締結

「技術普及課」二月十六日、中部森林管理局において「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」が森林総合研究所 沢田理事長、信州大学農学部藤田学部長と新島中部森林管理局長との間で、調印・締結されました。

この協定は、森林総研、信大農学部及び中部局の三者がそれぞれ実施する研究・事業、各種イベント等において連携・協力することにより、地域の森林・

林業及び木材利用の課題解決並びに成果の活用に取り組み、地域の振興を図ることを目的として締結されたものです。

三者はこれまでも、国有林をフィールドとした研究・技術開発や指導・助言等の連携を個別に行っていました。今回の協定により個々の研究・技術開発等を包括的に取り組むことができることに、木曾森林ふれあい推進センターを対外的呼称「木曾悠久の森フィールドセンター」として位置付け、森林総研や信大農学部が木曾地方の国有林で実施する研究・技術開発における各署との連絡調整の窓口として柔軟に対応することとしています。

協定締結式では、沢田理事長から「三者による技術開発やその成果の普及によ



左から沢田理事長、藤田学部長、新島局長

り地域の森林林業の課題解決に貢献していくことが重要である」、藤田学部長からは「森林林業の発展のため、三者が太いパイプで繋がることにより、様々な取組が強化できることに期待したい」、新島局長からは「協定により立派な二つの羽を得たようだ。これまでの技術の蓄積に加え、新たな技術をいち早く取り入れ地域の発展につなげていきたい」とそれぞれ挨拶があり、本協定を基とした連携により地域の振興に繋がる効果が期待されます。

**社会貢献活動に対する
局長感謝状の贈呈式開催**

〔総務課〕三月十三日、中部森林管理局で、平成二十八年中に管内の国有林野内等において、防災ボランティア活動や国土緑化推進等を通じた森林づくり活動、地域奉仕活動等における地域連携・社会貢献活動などに進んで携わっていただいた企業、団体の中で、特に顕著な功績のあった八企業及び五団体に新島中部森林管理局長から感謝状の贈呈を行いました。

本贈呈式は、平成二十年度から行っており、本年度は防災パトロール、林道沿いの草刈や整備・修繕、環境美化活動など三十一企業及び二十八団体から活動報告が提出され、審査の結果、局長感謝状を受賞した団体・企業は次のとおりです。



贈呈式終了後に全員で記念写真

☆企業の部

◇防災協力活動部門

木下建工(株)

(株)中島工務店

(株)矢野土木

◇森林づくり活動部門

付知土建(株)

◇地域連携活動部門

木曾土建工業(株)

(株)長瀬土建

(株)熊崎組

(株)加地工務店

☆団体の部

◇防災協力活動部門

名古屋林業土木協会付知支部

◇森林づくり活動部門

名古屋造林素材生産事業協会

飛騨支部・小坂支部

名古屋造林素材生産事業協会

愛知支部

◇地域連携活動部門

長野国有林森林整備協会

名古屋造林素材生産事業協会



「貴重な自然環境を未来へ」

中央アルプスの

シカ対策シンポジウム開催

〔南信署〕中央アルプス地域では、平成二十五年度に標高二六〇〇m以上でニホンジカの侵入が確認され、生息域の拡大、生息数の増加による貴重な高山植物や固有生物への干渉、林床植生等の消失に伴う土砂流出・林地崩壊の発生など自然環境や生態系への影響が懸念されるほか、農業被害の拡大等も心配されています。

このような中、当署が平成二十七年十月に開催した南信地区国有林野等所在市町村長有志協議会の総会において、中央

アルプスの食害に対する協議会の設立が提案され、平成二十八年二月十日に中央アルプス野生動物対策協議会（上伊那地方の全八市町村、南信森林管理署、天竜川上流河川事務所、信州大学、長野県）が発足しました。

本協議会は、中央アルプスにおけるニホンジカ被害の現状を広く皆さんに知っていただくとともに、今後の対策や情報共有・連携体制整備に繋げることを目的として、一月二十日、「中央アルプスのシカ対策シンポジウム」を駒ヶ根市で開催しました。

当日は、自治体の関係者の他に農林業関係者、観光業者や市民等、約百五十名の参加があり、基調講演では国立研究開



シンポジウム会場の様子



パネルディスカッションの様子
(右から3番目が久保南信署長)

事例報告では信州大学竹田謙一准教授が、「南アルプスにおける食害対策について」と題して、南アルプス食害対策協議会が、高山植物保護のため激しい食害地で行う防鹿柵の設置活動に、ボランティアの力を活用している事例等を報告しました。南信森林管理署からは谷澤功志森林技術指導官が「中央アルプスにおける国有林の取組」と題し、センサーカメラやGPS発信器によるニホンジカの

発法人森林総合研究所の小泉透ディレクターが「ニホンジカの生態と被害対策」と題して、ニホンジカ被害及び対策の歴史や、富士山麓で森林管理者・捕獲技術者・研究者が連携し取り組んだ、確実かつ効率的な捕獲を行うことで大幅に生息密度を低下させた取組の紹介がありました。

生息及び行動把握調査の結果、くくりワナによる職員捕獲の取組について報告しました。長野県からは佐藤繁シビエ振興室長が「長野県における鳥獣保護管理の取組」と題し、長野県における獣害の歴史と現状、効果的な獣害対策は行政のみでなく地域の関係者の協力が必要と話されました。

最後に行われたパネルディスカッションでは、本協議会の杉本幸治会長（駒ヶ根市長）から多くの観光客や登山客が訪れ楽しんでいく豊かな自然環境を守っていくため、猟友会や関係機関が連携した捕獲チームを設立し、効率よく捕獲を進めたいと話されました。久保芳文南信森林管理署長は、南アルプスから流入するシカの防止対策を行うこと、南・中央両アルプス協議会が連携する連絡協議会設立の必要性を指摘しました。竹田准教授は、南アルプスの協議会のような課題を共有できるチームワークづくりの必要性について話されました。

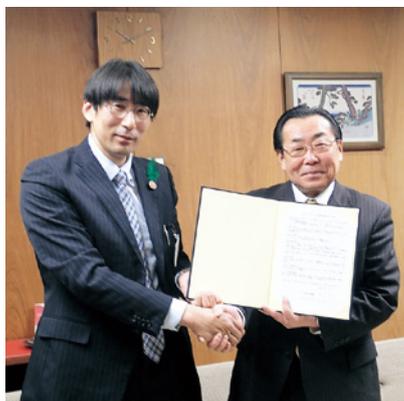
参加者からは「手遅れにならないよう早めの対策を行っていくことが重要」などの声が聞かれるとともに、新聞各紙に取り上げられ初期の目的が達成されたと感じていきます。

今後、本協議会は中央アルプス一帯の自然環境を関係市町村が一体となった保全に取り組むため、下伊那や木曽地域など周辺市町村へも参加を働きかけていく予定です。

瑞浪市と公共施設の 確認に関する協定を締結

「東濃署」二月十三日に瑞浪市と公共施設の確認に関する協定を締結しました。

最初に高塚東濃署長から協定の内容や他市で協定を締結した以降に情報を行った事例などを水野瑞浪市長に説明を行いました。



水野瑞浪市長（右側）と
高塚東濃署長

瑞浪市長からは「市では、道路や河川など様々な施設を管理している。その数は多く、職員のみでは管理でききれないことから、新聞配達、郵便配達やガス会社から市道に関して、仕事で見たことについて通報していただけることとしている。山の中まで入っていくことはできず、ピンポイントで情報をいただけることはありがたい」との挨拶がありました。

市長の挨拶の後、協定書に署名し協定が締結されました。
今回の瑞浪市との協定により、東濃署

管内のすべての国有林所在市と協定を締結することができました。

これまでも地域へ情報提供を行ってきたところですが、本協定が締結されたことにより、市の広報誌などでも取り上げられるなど、国有林を知らなかった方々にも国有林を認知していただくことができました。

東濃署では、本協定を地域貢献の一つの柱とし市と連携して実のある協定となるように取り組むこととしています。

「馬瀬川溪流魚付き保全林」の 指定に関する覚書を締結

「岐阜署」二月二十四日に下呂市長と岐阜署長の間で、「馬瀬川溪流魚付き保全林」の指定に関する覚書を締結しました。

溪流魚の良好な生息環境を保全する上で、森林は重要な役割を果たしています。

平成十五年に馬瀬村と岐阜署が「馬瀬村・溪流魚付き保全林」の指定に関する



服部下呂市長（左側）と
藤村岐阜署長

覚書を締結し、地域と管理署が連携して適正な森林整備や遊魚者等に対する森林愛護の啓発等を行ってきました。これからも両者がより一層連携を深め、清流馬瀬川を中心とする豊かな郷土づくりに向けて、あらためて覚書を締結し、意見交換を行いました。

平成二十九年度は馬瀬川渓流魚付き保全林を再度周知する目的で、民国連携のシンポジウムの開催を予定しています。

戸隠で共催イベント開催、戸隠連峰がくつきり

【北信署】北信森林管理署とNPO法人「やまぼうし自然学校」とは、相互の連携と協力によりイベントが円滑に実施できるよう「イベント実施協定書」を平成二十八年度締結しました。

この協定に基づき、共催イベント「パワースポット戸隠へ冬の森スノーハイック」を二月二十五日に参加者六名、スタッフ六名、総勢十二名で開催しました。当日は天候にも恵まれ、積雪が約二メートルある戸隠森林植物園〜鏡池〜随神門〜奥社入口までの約四・三キロメートルのコースをスノーシューで雪上ハイックを楽しみました。

参加者は、やまぼうし自然学校のガイドから、トチノキ・オオカメノキ・ハンノキ等の冬芽や木の説明を受けるとともに、シジユウカラ等の野鳥を観察することができました。森林管理署職員から



参加者と、くつきり現れた戸隠連峰と共に

は、この地域で見ることのできる動物の話や、戸隠地区で過去に木を切り出し、その部分から新たに芽が生長してできる「あがりこ」の話などで、森の理解を深めるよい機会となりました。また、昼食時には、鏡池から望む戸隠連峰がくつきりと現れ、スノーシューで歩いてきた疲れも一気に吹っ飛ばすような、美しい風景を見ることができました。

参加者からは「ガイドさんから初めて聞く話が多く、大変参考になった」との感想をいただきました。また、やまぼうし自然学校からは「今後も戸隠地区で春の芽吹き頃イベントを開催していきたい」との要望もありました。イベントを通じて、新たな発見をしながら無事共催イベントを終えることができました。

戸隠森林植物園で小鳥の巣箱掃除と利用状況調査

【北信署】北信森林管理署では、毎年四月上旬に実施される戸隠中学校二年生による小鳥の巣箱かけの前に、戸隠森林植物園保護管理協議会をはじめ、日頃から戸隠森林植物園を中心に活動している関係団体等の協力を得て、中学生がかけた巣箱の掃除と利用状況の確認調査を実施しています。

今年も三月二日に、関係団体から十五名、北信森林管理署から十二名、総勢二十七名で行いました。

戸隠森林植物園内にはまだ二メートル程の積雪がありましたが、天候にも恵まれ、慣れないスノーシューを履いて調査を行いました。

積雪により歩行には苦労しましたが、巣箱が梯子をかけなくても届く位置にあるため、調査はスムーズに進みました。



巣箱の掃除と利用状況を確認中

るため作業は容易に行うことができた反面、雪の中に埋もれた巣箱もあり、掘り起こすものもありました。

参加者からは、「今年は雪が多く、梯子を使わず作業が容易にできた」「営巣と思われる巣箱が多かった」「古い巣箱の回収ができた良かった」等の意見が聞かれました。

巣箱の利用状況調査結果は、三月七日に戸隠中学校で「巣箱かけの事前学習」において戸隠森林官から報告し、中でも昨年四月に設置した現二年生の巣箱の利用率が高かったことを聞くと、今回の巣箱づくりに意欲満々な顔を見ることができました。これから生徒一人一人が巣箱を作成し、四月下旬に巣箱設置を予定しています。

農政と連携し「ニホンジカ被害防止対策現地検討会」を開催

【愛知所】三月六日、愛知県新城市の甚古山戸国有林内において、ニホンジカ被害防止対策現地検討会を開催しました。

この検討会は農政との連携による被害対策の一環として、新城・北設広域鳥獣害対策協議会委員の方々と約三十名が参加しました。

新城・北設広域鳥獣害対策協議会は愛知県東三河東部地区の地方公共団体、JA、猟友会、森林組合、ジビエ等の利活用業者などが委員となり、農林業や生活環境に関わる野生鳥獣の被害防止対策を



金網（軟線タイプ）防護柵の説明中

実施しています。

当日は、愛知森林管理所において森林技術指導官から中部森林管理局及び愛知森林管理所における獣害対策の取組について説明を行った後、今年度、埼玉式ニホンジカ防護柵（さいねっと）を設置した現地に向かいました。

現地では、総括森林整備官等から防護柵（さいねっと）の設置方法、メリットと課題等の説明とともに、試験的に設置した幼齢木単木ネットや愛知県森林・林業技術センターと連携で設置したセンサーカメラを見学しました。その際、センサーカメラについてNPO法人から、ニホンジカ等を感じた場合にその情報を携帯電話にリアルタイムで送信できる最新機種を紹介もありました。

また、獣害対策を実施している業者から金網（軟線タイプ）防護柵の設置実演

も行われました。

参加者からは、金網防護柵等のコストや耐久性に関する質問とともに、実際に農地等で防護柵等を設置していることから倒木により防護柵が破損した場合の対処方法などに関する質問も出され、利用に関する意見交換も行われました。

愛知県では、ニホンジカによる被害が増えている状況にあり、農業・林業の枠を超えて広域的な被害防止対策の実施が緊急の課題となっております。

愛知森林管理所では、平成二十九年度に伐採（皆伐）跡地に種類の異なる防護柵（①さいねっと②ダイニーマ③金網柵）を設置し、試験地としてコスト面・耐久性などを継続的に調査を実施し、その効果の検証とともに現地視察会の開催等を行い、関係者への普及に努めていくこととしています。

「ササの一斉開花に係る

情報交換会」を開催

【愛知所】三月七日～八日にかけて、愛知森林管理事務所等において「ササの一斉開花に係る情報交換会」を開催しました。

平成二十八年六月に愛知県設楽町の段戸国有林でササの一種「スズタケ」の一斉開花が確認されました。ササは開花後に実を付けて枯死しますが、過去の文献ではササの実を餌に野ネズミが異常繁殖し、植えて間もないヒノキやスギの苗木

に食害被害が発生した例が記録されています。

このため、当所では愛知県や森林総合研究所と連携を図る中で野ネズミの生息状況調査を行ってきました。今回その調査結果を踏まえ今後の対応等を検討するため、愛知県担当者等との情報交換会を開催しました。

一日目は、愛知森林管理事務所において当所と愛知県からは野ネズミの生息状況調査の結果、森林総合研究所からは百二十年に一度の現象であるササ一斉開花のメカニズム等の調査結果についての報告がありました。その後、意見交換を行いササの一斉開花後の対応等に関する知識等の共有を図りました。

二日目は、現地においてササの現状等の調査を行いました。

森林総合研究所の研究員からササは開花後に結実が確実に行われた場合に枯死



意見交換の様子



ササの開花現地で調査確認中

し、結実が確実にするまで開花する性質があり、ササの枯死がまばらで結実が少ないことから平成二十八年は一斉開花の始まりで、平成二十九年が一斉開花の本番ではないかとの説明がありました。

現地調査等を踏まえ、現状では野ネズミの発生が少ないことから早急な駆除の必要性はないものの、今後においても関係者間で連携を図り、野ネズミの発生状況の継続的調査やササの枯死・結実の状況など定期的に情報交換会等を行うべくことを確認しました。

行事・会議等の予定

◎平成二十九年事業概要記者発表

4月13日 中部森林管理局

4月14日 名古屋事務所

◎会計実施検査

4月17～26日 中部森林管理局管内



【愛知森林管理事務所豊橋森林事務所】

高橋良一 森林官

豊橋森林事務所は、静岡県との県境に接した愛知県豊橋市の住宅地にあり、中部森林管理局管内では、最も南に位置している森林事務所です。

管轄区域は、岡崎市・豊橋市・新城市に所在する五箇所の国有林約二〇〇〇鈔



豊橋国有林から望む豊橋、豊川市街地



棚山国有林から見る瀬戸岩

を管理しています。

五箇所の国有林は都市部に近いことからレクリエーションの森としての役割が高く、地元市が管理する遊歩道・登山道があり県内外の多くの方が訪れています。

その中で甚古山国有林（新城市）の富幕山（標高五六〇鈔）は、低山で初心者用のコースとしてよく知られています。少々難易度が高い棚山国有林（新城市）の宇連山（標高七九〇鈔）は県境の新城市鳳来地区鳶ノ巣山から岐阜県境の犬山

ライン大橋に至る延長二〇四キロメートルの東海自然歩道が国有林内を縦断していることから林野巡視中に登山やトレッキングに訪れている方々と出会うこともしばしばあります。

市街地に近く交通の利便性が良い豊橋国有林は、一般企業による体験伐や豊橋消防署のヘリ消火訓練と山岳救助訓練の場としてフィールドを提供しています。

豊橋国有林に隣接している葦毛湿原は愛知県絶滅危惧種に指定されているミカワバイケイソウやミカワシオガマ等の東海地方に特有な植物が自生しています。近年、湿原の水量が減少傾向であるとされ、このままでは生育している植物に影響がでることから、豊橋市においては平成二十四年に葦毛湿原の大規模植生回復作業計画を策定し継続的な植生回復作業を実施しています。この植生回復作業の一貫として葦毛湿原の上流部に位置する国有林で間伐等の計画的な森林整備を実施して欲しいとの要望等も踏まえ、平成二十七年に約五鈔の間伐を実施しました。この間伐によりミカワバイケイソウの発芽や水の流れがはつきり見えるようになるなどの成果が現れています。今後とも豊橋市と連携する中で計画的な森林整備を実施することとしています。

都市近郊林を抱える事務所であることから、様々な人たちが色々な形で国有林と関わり利用しているため、問い合わせ

事案も多く、やり甲斐がある楽しい事務所だと思っています。

また、愛知県は、交通死亡事故が全国で一番多く、交通の取締りも厳しい状況です。

このことから、公私を問わず交通事故や交通違反をしないよう常に安全運転に心がけ、無事故無違反を継続していきたいと思っています。



葦毛湿原に咲いたミカワバイケイソウ

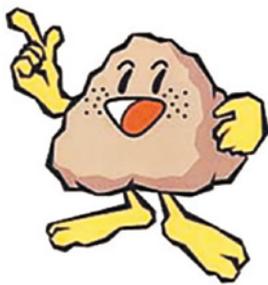


◆七宗町

七宗町は岐阜県の中南部に位置し、国道四十一号で愛知県尾張地方、名古屋市と結ばれ、休日にはドライブや登山客などが訪れる都市部に近い自然豊かな町です。

七宗町の人口は約四千人。面積は県庁所在地の岐阜市の約半分の九〇〇〇ヘクタですが、森林率は九一・五割と高く、あまり知られていませんが、岐阜県の美濃地方（飛騨地方を除く）の市町村で最も高い森林率を誇ります。

町の木はヒノキ。当署の七宗森林事務所があり、国有林の管理や民有林との連携を行っています。



礫岩から生まれた「レッキー君」(七宗町のマスコットキャラクター)



日本最古の石博物館。左奥は道の駅

◆石のまち

七宗町には「日本最古の石博物館」があります。

日本最古の石とは、一九七〇年に飛騨川河床から発見された二十億年前の片麻岩で、この石は「上麻生礫岩」（かみあそうれきがん）と呼ばれ、今までに年代測定された石の中で、日本最古の石であることがわかっています。

日本最古の石博物館には二十億年前の石である上麻生礫岩をはじめ、地球の誕生から現在に至る四十六億年の歴史がわかる資料が展示されています。隣には「道の駅・ロックガーデンひちそう」と「物産館 ロックタウンプラザ」があり、眼下には飛水峡の景観が広がります。さらに、飛騨川の激流が長い歳月をか

けて岩石を壺状に削り取った甌穴（おうけつ。ポットホール）は、飛騨川の峡谷である飛水峡一带に点在し、大きなものは穴の直径が五メートル、甌穴の数は八八〇個あると言われ、他に類のない規模の甌穴群です。

石博物館は、国道四十一号線沿いであり、北に走れば岐阜森林管理署のある下呂市、飛騨地方へ。南に走れば愛知県尾張地方、名古屋市へ抜けます。ドライブを兼ねて日本最古の石や甌穴群を見に来ませんか。



道の駅の眼下に広がる飛水峡

◆森林共同施業団地と

ケーススタディ地区

岐阜森林管理署では平成二十七年三月に、七宗町、岐阜県、森林組合などと森林整備推進協定を締結し、民有林と国有林が連携して木材生産を進めています。

また、平成二十八年度からはこの森林共同施業団地を林野庁のケーススタディ地区に設定し、各種事例研究を開始しました。例えばニホンジカ対策では、岐阜県初の職員捕獲の試行や、ニホンジカ食害防除対策検討会を開催しました。



ニホンジカ食害防除対策検討会

地区内の隣接にニジマス釣り池及び釣ったマスの料理や食事を楽しめる施設があり、当署も研修会の会場として利用しています。

これからも国有林が、地域振興の一助となるような取り組みを行い、七宗町の活性化につなげていければと思っています。

【アクセス】

東名高速道路小牧ICから国道四十一号を北上し、約一時間で「道の駅・ロックガーデンひちそう」へ。